

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援 Unité					公表日	令和8年 3月31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点		
環境・ 体制・ 整備・ 運営	1	訪問支援に使用する場合の教員教材は適切であるか。	2	1				
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	2	法令基準に基づき職員を配置し、子どもの状態や人数に応じて支援に入る職員を柔軟に調整しています。	訪問できる人員を増やし、保育園等とより連携が取れる関係づくりに努めます。		
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	1	日々の記録や振り返りを共有し、PDCA を実践しています。また、即時に対応できるよう、OODA活用に努めています。	更に仕組みづくりや情報共有の工夫を進めていきます。		
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		保護者向け評価表を通して意向を把握し、いただいた内容を日々の業務改善に1つ1つ生かしています。	より多様な意見を反映できるよう、意見を伝えやすい仕組みづくりを継続していきます。		
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		職員の意見を共有する機会を設け、いただいた内容を業務改善に1つ1つ生かしています。	改善されたところの明確化の工夫をします。		
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	2		風通しの良い事業所を目指します。		
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2	2	毎月の研修に加え、不定期で外部専門職による研修や助言の機会を設け、職員の資質向上に取り組んでいます。	研修内容の充実に向けて、より実践的なテーマや外部資源の活用方法を検討していきます。		
適切な 支援の 提供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	3	1	一人ひとりに適切なアセスメントを行い、ニーズや課題を客観的に分析した裏づけのもとで支援計画を作成しています。	より質の高い計画作成に向けて、アセスメント方法や情報共有の工夫を継続していきます。		
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		児発管だけでなく、支援に関わる職員が共通理解をもてる工夫をしながら、子どもの最善の利益を考えて支援計画を検討しています。	より質の高い計画作成に向けて、情報共有や検討方法の工夫や仕組みづくりを継続していきます。		
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	3	1	子どもと保護者の状況を丁寧に把握した上で保育園等の意向を確認し、無理のない計画に反映するように心がけます。	計画に関しては、情報が共有できるように努めます。		
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		職員が共通認識を持ち、発言しやすい環境を整えることで、計画をイメージしやすい体制づくりを進めています。	より意見交換ができる環境づくりを行い、また職員の頭に残りやすい取り組みを行います。		
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	1	支援の裏づけのため、標準化ツールによるアセスメントと日々の行動観察を組み合わせ、子どもの適応行動を多面的に確認しています。	標準化ツールの目的や活用方法を共有し、実践と結びつけて理解を深められるよう取り組んでいます。		
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	2	1	個別支援計画の策定過程について職員間で情報共有し、共通理解のもとで支援を進めています。	より適切な計画作成に向けて、ガイドラインの内容や支援項目の選定方法を職員間で継続的に確認していきます。		
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		職員が共通認識を持ち、発言しやすい環境を整えることで、計画をイメージしやすい体制づくりを進めています。	より意見交換ができる環境づくりを行い、また職員の頭に残りやすい取り組みを行います。		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	1	支援開始前に職員間で打合せを行い、その日の支援内容や役割分担を確認しながら連携して支援を行っている。	今後は、打合せ内容を共有しやすい形に整え、誰もが支援内容を把握しやすい体制づくりをみんなで進めていきたい。		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		支援後には職員で振り返りを行い、気付いた点を共有しながら次の支援につなげている。	全員が同じタイミングで参加できない日もあるため、情報を共有しやすい方法を今後もみんなで創り上げたい。		
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	4		園との関係性づくりを大切にしており、保育園等の方針や先生方のスタイルを尊重しながら進めています。	今後も、関係性を深められるよう、相互理解に努めます。		
18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	4		毎回の支援について記録を取り、振り返りや支援内容の改善に活かしている。	支援後すぐに記録できない日もあるため、記録を共有しやすい仕組みづくりを全職員で進めていきたい。			
19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		法令遵守のもと、定期的にモニタリングを行い、必要に応じて期限前に計画を見直しています。	モニタリング結果を踏まえ、必要に応じて計画の見直しや支援方法の調整につなげていきます。			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	1	同法人内の相談支援事業所との会議には、担当児童の状況をよく理解した職員が参加しています。	適切な職員が参画できるよう連携体制を整え、相談支援との協働を強化します。
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	2	保健・福祉・教育などの関係機関と情報共有を行い、少しずつ関係性を深めています。	今後も関係機関との連携を広げ、情報共有が円滑に行える体制を整えていきます。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	2	移行資料を作成し、関係機関へ引き継ぎを行うほか、放課後等デイサービスとも情報共有を行っています。	今後も支援内容の情報共有を進め、関係機関との相互理解を深める取り組みを行っていきます。
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	2	2	専門職などから助言を受けたり、職員を外部研修に参加させるなど、専門性向上に取り組んでいる。	研修で得た学びを実践に活かせるよう、日々の支援の中で取り組みを続けていきたいと考えている。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	1	3	定期的な研修や会議には参加している。	地域課題に目を向けながら、協議会への参画を通して地域との連携を深めていきたい。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	4		日頃から保護者とこどもの様子を伝え合い、発達の状況や課題について共通理解を持てるよう努めている。	業務状況により保護者との共有が十分にできない日もあるため、HUGだけでは補えない部分も含めて、無理なく情報を伝え合える方法を検討していきたい。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	3	研修室内や地域の情報提供を行っています。また、言語聴覚士の個別支援では、可能な保護者には同席をお願いしています。	今後も保護者が参加しやすい形で、家族支援の機会を広げていきます。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		運営規程、支援プログラム、利用者負担について、利用開始時に丁寧な説明を行っています。	今後も分かりやすい説明に努め、必要に応じて内容の見直しや説明方法の工夫を行っていきます。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	4		訪問先に事業の趣旨や支援の目的を伝え、安心して受け入れていただけるよう努めている。	訪問先の状況によっては説明の時間が十分に取れないこともあるため、事業の趣旨や支援目的をより伝えやすい仕組みを検討していきたい。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		アセスメントやモニタリングの際に、こどもや保護者の意向を丁寧に確認し、最善の利益を踏まえて支援計画に反映しています。	今後も意向確認の機会を大切に、子どもと家族の思いがより反映される計画作成に努めていきます。
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	4		個別支援計画を示しながら支援内容を説明し、保護者から同意を得ています。	保護者には制度や計画策定の時期について事前に説明を行い、児童発達支援計画が計画的に進められるようにしています。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言や支援を行っているか。	4		日頃から家族の方の子育てに関する相談に寄り添い、必要な助言や支援を丁寧に行っている。	業務の状況により相談対応が難しい日もあるため、家族が相談しやすい仕組みや連絡手段を今後も整えていきたい。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		4	地域の家族向け事業の情報提供を行っています。	今後は、無理のない範囲で保護者やきょうだいが参加しやすい交流の機会についても検討していきます。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3		相談や申入れに対応できる体制を整え、電話・面談・HUGシステムを通して周知しています。相談があった際には、迅速で丁寧な対応を心がけています。	今後も相談しやすい環境づくりに努めていきたいと思えます。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	1	3	保育所等訪問支援に関しては、情報発信が少ない。	周知理解のためにも、発信していきます。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報の取扱いには十分に配慮し、管理規定を設け、適切な管理体制を整備しています。	今後も見直しを行い、個人情報の適切な管理が徹底できるよう努めていきます。
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		こどもの特性に応じた関わりや視覚的支援を用いて、意思疎通や情報伝達に配慮している。	今後もこどもと保護者が安心して相談できるよう、分かりやすい伝え方の工夫を続けていきます。
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	4		訪問支援とあわせて、訪問先の先生方からの相談にも丁寧に、こどもの理解や関わり方に関する助言を行っている。	訪問先の業務状況によっては相談に十分に応じられない日もあるため、相談しやすい体制づくりや情報共有の方法を今後も検討していきたい。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	4		訪問支援の実施後には、必要に応じて訪問先施設とカンファレンスを行い、こどもの様子や支援内容について情報共有を行っている。	訪問先の状況によりカンファレンスが実施しづらい日もあるため、より共有しやすい方法を今後も検討していきたい。
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	4		訪問支援の実施後には、HUGシステムを用いて必ず保護者へ支援内容を共有し、家庭と園の双方で支援がつながるよう配慮している。	時間帯や業務状況によっては、HUGだけでは十分に伝わりない時もあるため、必要に応じて補足の連絡方法や共有の工夫を今後も検討していきたい。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報の取扱いには十分に配慮し、管理規定を設け、適切な管理体制を整備しています。	今後も見直しを行い、個人情報の適切な管理が徹底できるよう努めていきます。

	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	4		信頼関係を大切にしながら、訪問先施設からの相談に適切に応じ、こどもの特性に応じた専門的な助言を行っている。	訪問先の業務状況によっては相談時間も確保できないこともあるため、より相談しやすい体制づくりや情報共有の方法を今後も検討していきたい。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	1	事故防止・緊急時対応・防犯・感染症等の各マニュアルを法令に基づき整備し、定期的に見直し、適切に対応できる体制を整えられるよう取り組んでいます。	理解してもらえるような周知方法を検討したい。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	1	こどもの安全確保のための計画を法令に基づいて整備、周知しています。定期的に見直し、適切な体制となるよう取り組んでいます。	保育所等訪問支援に沿った安全計画や研修内容を見直し、より実効性の高い安全管理体制の維持に努めています。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた対策について検討をしているか。	4		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた対策を職員間で検討しています。また、職員が報告しやすい環境づくりにも取り組んでいます。	ヒヤリハットをよりよい支援につながる重要な情報として捉え、職員が報告しやすい情報が集まりやすい環境づくりに取り組んでいます。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		虐待防止に関する研修機会を確保し、適切な対応ができるよう職員の理解と体制整備に取り組んでいます。	虐待は支援の質や理解不足から起こり得るとの視点を持ち、適切な支援が行えるよう学びを深めています。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	1	現在、身体拘束を必要とするこどもはおらず該当する対応は発生していませんが、契約時に身体拘束に関する説明を行い、方針を共有しています。	支援の質向上に向けて学びを継続し、身体拘束の範囲についても理解を深めながら適切な判断に努めています。